

	西暦	和暦	浦賀	世の中
I 期	1648	慶安元	燈明堂設置	
	1720	享保 5	奉行所 下田から移転 開設 1,749㎡ (529坪)	
			この間 焼失2回、総建替え1回	
	1811	文化 8	平根山台場建設	
	1818	文政元	ブラザーズ号(イギリス)来航	
II 期	1821	文政 4	奉行所拡張 5,554㎡(1,680坪)	
				異国船打払い令(1825)
	1837	天保 8	モリソン号(アメリカ)来航、 平根山台場から砲撃	
				アヘン戦争(1839～1842)、異国船打 払い令廃止、薪水給与令(1842)
	1845	弘化 2	鶴崎台場建設	
	1846	弘化 3	ビッドル艦隊(イギリス)来航	
	1847	弘化 4	千代ヶ崎台場建設	
	1848	嘉永元	亀甲崎台場建設	
	1849	嘉永 2	蒼隼丸建造	
	1853	嘉永 6	ペリー艦隊(アメリカ)来航 明神崎台場建設、浦賀修船場建設、 見魚崎台場建設	大船建造の禁 解かれる
III 期	1854	安政元	ペリー艦隊再度来航 浦賀にて鳳凰丸竣工	安政地震(東海・南海地震)
	1855	安政 2	奉行所拡張 6,456㎡(1,953坪)	日米和親条約 締結
	1857	安政 4	観光丸 修理	
	1859	安政 6	浦賀修船場にドック建設 咸臨丸 修理	横浜など開港 神奈川奉行所 開設
				日米修好通商条約批准(1860)、横須 賀製鉄所起工(1865)、大政奉還(1867)
	1868	明治元	明治政府が浦賀奉行所を接收	戊辰戦争(～1869)、 観音崎灯台点灯(1869)
	1872	明治 5	船改め廃止	
	1891	明治24	中島三郎助招魂碑建立	
	1895	明治28	千代ヶ崎砲台竣工	
	1898	明治31	川間ドック竣工	
	1899	明治32	浦賀ドック竣工	
	1924	大正13	浦賀奉行所跡が国史跡の仮指定を 受ける(1950に解除)	

令和6年度 浦賀奉行所跡発掘調査の状況報告

1. 調査期間

令和7年1月6日(月)～3月21日(金) 予定

掘削は、1月14日(火)から開始している。

2. 調査の目的

- ① 浦賀奉行所の3期にわたる敷地拡張の痕跡(平面的な広がり)と各時期の遺構の重層性(垂直方向)の確認(令和6年度)。
- ② 浦賀奉行所が日本史上外国との交渉の最前線となった第3期の政庁の探求(令和7年度)。
- ③ 令和6・7年度の調査成果を受けて必要調査区の設定(令和8年度)。

3. 進捗状況

- ・調査区(TP)1から16を設定したが、遺構の検出に時間を要し、残る調査期間の関係でTP1～4、8、9、12～14、16の計10か所の掘削で今年度調査を終了とする見込み。
- ・目的とする拡張の痕跡や各期の遺構を確認することができた。
- ・今後は、今年度調査の成果を検討して、次年度の調査計画を再考する。

4. 発見された主な遺構と遺物

(1) 浦賀奉行所 享保5(1720)年から明治元年(1868)年

遺構＝Ⅲ期：最終拡張(安政2(1855)年)後の石敷き、瓦溜り、柱穴

Ⅱ期：最終拡張前(文政4(1821)年～安政2(1855)年)の石敷き

Ⅰ期：開設当初(享保5(1720)年～Ⅱ期拡張前(文政4(1821)年)の石敷き？、境界の石積み？

遺物＝奉行所に葺かれていた瓦・陶磁器類ほか

(2) 浦賀船渠株式会社の工員宿舎 昭和15(1940)年から昭和20(1945)年

遺構＝レンガ積みの建物基礎(土台は無筋のコンクリートと煉瓦)

遺物＝浦賀船渠(ドック)株式会社のロゴマーク付きの統制陶器食器類ほか